

褒章審査票の作成要領

1 使用様式

初葉：褒章審査票（E）

次葉：褒章審査票（B・D・E－2）

（注）次葉以上にわたる場合は、必ず「1／2」、「2／2」と記入する。

2 記載要領

(1) 基本項目

記 入 欄		記 載 例	注 意 事 項
年	次	令3秋	褒章発令の年次及び春秋の別を記入する。
省	庁 等	財務省（国税庁）	
コ	ー ド	689	
通 し 番 号			記入しない。
本 籍	左 側	埼玉県朝霞市	都道府県名から戸籍どおりに記入する。 コード欄（本籍）に記載されるコード番号に対応する部分を点線の左側に、それ以降の部分は点線の右側に記入する。
	右 側	大字溝沼 1983 番地の 2	
コード（本籍）		11227	統計に用いる標準地域コード（総務省統計局のHPを参照）による都道府県及び市区町村のコードを記入する。
現 住 所	左 側	〒100-0013 東京都千代田区	履歴書に記載した現住所を都道府県名から略さずに記入する（履歴書の表記と一致させる。本籍地と同じ場合には、本籍地の表記と一致させる。）。 コード欄（現住所）に記載されるコード番号に対応する部分を点線の左側に、その以降の部分は点線の右側に記入する。
	右 側	霞が関3丁目1番1号	
コード（現住所）		13101	統計に用いる標準地域コード（総務省統計局のHPを参照）による都道府県及び市区町村のコードを記入する。
ふ り が な 氏 名		こくぜい たろう 国 税 太 郎	氏名は戸籍どおりに正確に記載する。 戸籍の氏名に外字が使用されている場合、外字部分は文字を「○」で囲む。
性	別	男	性別を記入する。
旧 氏 名 等		大蔵 太郎 (昭23.5.1改姓)	改姓、文字訂正がある場合には、旧氏名及び改姓等を行った年月日を記入する。
ふ り が な ペンネーム・芸 名			ペンネーム・芸名等のある者は、芸名等を記入し、ふりがなを付ける。

記 入 欄	記 載 例	注 意 事 項
勲章	昭和15春 旭八 (戦時功労)	既有的勲章の種類とその発令年月日および功労名を記入する。 ※ 国税関係の功労名は勲章審査票の作成要領「功労名」欄の記載例を参照。
褒章	平3秋 藍綬 (納税功績)	既有的褒章(紺綬を除く)の種類とその発令年月日および功績名等を記入する。 ※ 国税関係の功績名等は「功績名等」の記載例を参照。
生 年 月 日	昭和〇年〇月〇日 (〇歳)	戸籍に記載されている生年月日を記入し、()内に褒章発令日(11月3日)現在の年齢を記入する。
出 生 地	宮城県仙台市	戸籍に記載されている出生地を記入する。 本籍と同じ場合にも略さず記入する。
主要経歴 ※民間の場合	原則、主要経歴は1つとし、上段に記載する。 内示時に本人が他の役職の記載を希望した場合は、変更できる場合もある。	
	藍綬	現 (社)〇〇県法人会 副会長
	黄綬	現 (株)〇〇 代表取締役 現 税理士 現 杜氏 現 〇〇県議会議員
功 績 名 等 (褒 章)	藍綬	納税功績
		税理士功績
		酒類業振興功績
	黄綬	業務精励(税理士業)
		業務精励(酒類製造業)
		業務精励(酒類販売業)
		業務精励(酒造業)
最 終 学 歴	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 昭和〇年〇月 卒業	履歴書に記載した最終学校名(学部、学科名を併記。なお、編入の場合は学科名等の後に「(編入)」と記入)及び卒業又は中退の年月を記入し、「卒業」又は「中退」と記入する。

(2) 「職名等」欄

項 目	記 載 例	注 意 事 項
兵 役	兵役	兵役期間があれば記入する。
生 業	〇〇(有) 社員 (株) 〇〇〇 取締役 (株) 〇〇〇 代表取締役 税理士	会社等の職歴については、会社ごとに社員及び役員別(取締役、常務取締役、専務取締役、代表取締役社長、代表取締役会長)に時系列に記入する。 表記は履歴書と一致させる。

項 目	記 載 例	注 意 事 項
関 係 民 間 団 体	(社) 〇〇青色申告会連合会 理事	下位団体から上部団体の順に記入し、団体の分野ごとに欄を1行空ける。 表記は履歴書と一致させる。 上欄に記載した団体と同じ団体の役職を記載する際は、団体名を「〃」または「同上」として記載を省略する。
	(社) 〇〇県法人会連合会 副会長	
	日本税理士会連合会 理 事	
	〃 副会長	
その他の団体等	〇〇県酒造組合 会長	上記に準じて記載する

(3) 「区分」欄

「主要経歴」欄に記入した経歴の該当する職の部分に○を記入する。

(注) 主要経歴は原則として在職年月数が1年以上ある役職とする。

(4) 「在職期間」欄

その職の始期及び終期を日付まで（不明な場合は年月まで）記入する。

現職者については、終期を「現在」と記入する。

(5) 「在職年月数」欄

① 半月単位で計算した在職年月数を記入する。

② 月の途中で就職又は離職した場合は、始期及び終期を次の日付とみなして計算する。

区 分	始期（就職日）	終期（離職日）
15 日以前に就職（離職）した場合	1 日	15 日
16 日以降に就職（離職）した場合	16 日	月の末日
日付が不明な場合	16 日	15 日

(注) 原則として直近の役職から在職年月数の計算における始期、終期を決定し、前後の役職と在職期間の重複がないように計算する。

ただし、主要経歴の役職の後、相談役等の役職が続く場合は、主要経歴の在職期間を多くとって計算する。

【参考】在職年月数の計算例

例	在職年月数		
昭 38. 5～40. 4 (昭 38. 5. 16～40. 4. 15 とみなして計算)	1	11	0
昭 40. 4～45. 5. 2 (昭 40. 4. 16～45. 4. 30 とみなして計算)	5	0	半
昭 45. 5. 3～47. 4. 26 (昭 45. 5. 1～47. 4. 15 とみなして計算)	1	11	半
昭 47. 4. 27～50. 4. 29 (昭 47. 4. 16～50. 4. 30 とみなして計算)	3	0	半

(6) 「事績概要」欄

次の区分に応じて記入する。

区 分		記 入 内 容
納 税	藍 綬	多年税務関係団体の要職にあつて、斯界の向上に寄与した。
税 理 士	藍 綬	多年税理士として周到綿密よく職務を遂行した。
	黄 綬	多年税理士としてよく職務に精励した。
酒 類 業	藍 綬	多年〇〇業に携わり業界の発展に寄与した。
	黄 綬	多年〇〇業に従事し、斯業の発展に尽力した。
杜 氏	黄 綬	多年杜氏としてよく職務に精励した。

(7) 「表彰歴」欄

大臣表彰、知事表彰又はこれらに相当する表彰を受けている場合に、表彰年月日、表彰名、表彰事由を記入する。

(8) 「会社の規模など」欄及び「団体の規模など」欄

① 会社の規模

候補者の生業における会社の規模等を記入する。

② 団体の規模

勲等格付けに影響した団体の規模等を記入する。

(注) 「団体規模及び事業概況等調」の内容と一致させること。

(9) 「備考」欄

① 兵役がある場合は、その期間と戦時功労による前叙の有無を記入する。

② 生業が酒類製造業及び杜氏の場合には、代表的な酒の銘柄を記入する。

③ 杜氏について、全国新酒鑑評会金賞を受賞している場合は、「全国新酒鑑評会金賞〇〇回」と記入する。

④ 遺族追賞の場合には、「令和〇年〇月〇日死亡（死亡原因）」及び「遺族 〇〇 〇〇（続柄）昭和〇年〇月〇日生」と必ず記入する。

⑤ P 8 の別表に掲げる経歴を有する場合は、該当する記入事項を適宜記入する。

⑥ その他審査上、特に考慮する必要があると思われる事項がある場合には、当該事項を記入する。

(10) 「申立」欄

褒章の種別を記載する。